

# 確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

## 平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示  
 (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

6月4日(月)  
内田

今回は30日にあった徳淵先生の大研についての通信です。

まずは、事後研の研究協議を中心にまとめたいと思います。実際の授業の流れについては、4年部の先生方がまとめられているものがありますので、そちらをご覧ください。

### <研究協議>

#### 本時の課題(折れ線グラフ)について

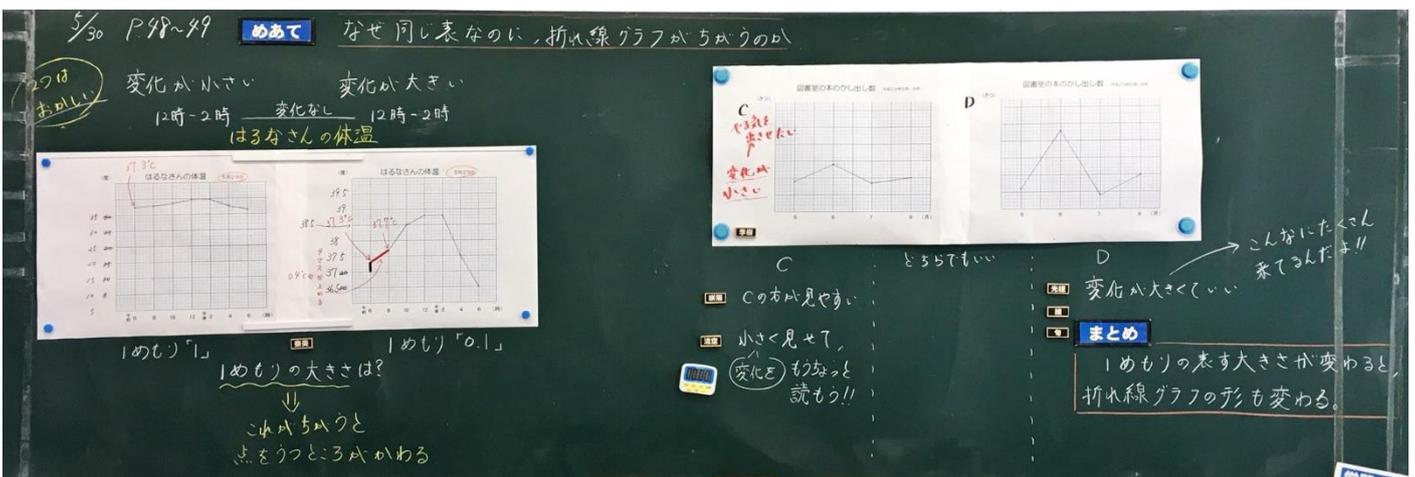
- 提示した折れ線グラフは、情報不足過ぎたのではないかと少し、情報を与え、討論の時間を確保してもよかったように感じた。(目盛りをもう少し出してもよかった)
- 教科書であれば、「変化が大きい折れ線グラフがよい」となっている。本時の評価はどうあるべきだっただろうか。展開前半と展開後半の区切りが少しあいまいになっていた。
- 展開後半の2つの折れ線グラフでは、それぞれの立場で集まって話合うのもよかったのではないだろうか?
- 目的によって、折れ線グラフの扱い方もいろいろあるという場面設定がよかった。

#### 対話的活動について

- 「ヒントをつかんだ人?」と聞いて、2分間ヒントをつかんだ子に話を聞きに行かせた。その意図を知りたい。  
 →友達の考えをもとに、自分なりに解釈したり、表現できるようになったりして欲しい。そのため、聞きに行った子たちに発言させ、評価するようにしている。他には、友だちの意見を聞いて考えが変わってもいい場面でも、同じような手立てを講じる。

#### 今後の課題

- 学校総体として、本時から何をどう引き継いでいくか、みんなで明らかにしていきたい。
- 特別支援学級は、どのように研究に関わっていくべきだろうか。



## <講評>

### 谷上指導主事

- 生き生きとした姿と、自然と話し合える雰囲気、4年1組の学ぶ空間が素晴らしかった。
- 2つのねらいに2つのしかけ、この点は素晴らしかったが、やはり時間が足りなかったように感じる。本時は、60分の授業として、カリキュラムを立ててもよかった。
- 情報不足という課題の提示は◎。情報過多という方法もある。
- 「この資質・能力をこの時間でつけたい！」という指導計画、扱う単元がどんな系統になっているのか(=系統観)を明らかにして、指導計画を考えて欲しい。

### 土肥指導主事

- 室小として「学びに向かう力」の定義づけが必要になってくる。ただし、「学びに向かう力」を含む3つの資質・能力は相互に関係しあっているので、「学びに向かう力」を中心に据えたときの、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の位置づけも検討しなければならない。

### 荒巻指導主事

- 「なんで？」を問うための手立てが多く考えられた授業だった。
- 本時のねらいである、「問いを引き出す」が、室小としての「主体的で深い学び」か？学校総体として考えていく必要がある。校内研修では、協議内容を焦点化することで、より学校総体としての研修になってくる。

今後の研究の方向性を考えるために必要な、様々な視点が出された校内研修だったと思います。私は、子どもたちから、問いが出てきて素敵だなあと感じました。そして、それ以上に子どもたちの「あ〜」「なるほど」といった言葉が印象に残りました。日々の授業をどのように創っていくか。目指す子どもの姿を具体的にイメージして考えていきたいです。

徳淵先生、ありがとうございました！

授業者としては、うまくいきませんでした。が、子どもたちの日頃に近い姿は見てもらえたかと思います。2点について述べます。

一点目。「めあて」や「まとめ」のたて方です。教師側から提示することもありますが、基本は子どもたちの言葉を紡いで作ります。「今日のめあて、何にしようかな〜？」と、とぼけてみせるだけで、子どもたちはつぶやき始めます。そのつぶやきを褒めてあげるだけで、「めあてを自分で考えよう」という態度は育てられると思います。

二点目は「4年1組は自然なつぶやきが多い」という評価を参観カードでもたくさんいただいた点。担任からすると、彼らは日頃もっとしゃべっています(笑)。授業の中では、だまって聞く場面、思いついた人がつぶやいていい場面、全員がつぶやくべき場面など、いろいろな場面があります。“今”がどの場面かを考えて授業を行うと、子どもたちにも自然と「今は聞く場面だな」といった意識を持たせられると思います。あとは、「あ〜(納得)」「わからん！」などの自然な反応を拾って、褒めるとそれが教室の中での共通のものになってきます。

先生方の授業作りのヒントの一つでもなっていたら嬉しいです。ありがとうございました。

徳淵